

インタビュー紹介（職名は2010年9月1日現在）

松島 茂（まつしま しげる）

東京理科大学大学院教授。

東京大学法学部卒業。通商産業省入省、大臣官房企画室長、工業技術院技術審議官、中部通商産業局長を歴任。法政大学経営学部教授を経て現職。

主要著作・論文

『産業集積の本質』（伊丹敬之、橘川武郎と共編、有斐閣、1998年）、『イノベーションの創出』（尾高煌之助、連合総合生活開発研究所と共編、有斐閣、2010年）、『池淵浩介オール・ヒストリー』（尾高煌之助と共編、法政大学イノベーション・マネジメント研究センター、2008年）、『和田明広オール・ヒストリー』（尾高煌之助と共編、東京理科大学専門職大学院MOT研究叢書、2008年）、『大橋正昭オール・ヒストリー』（東京理科大学専門職大学院MOT研究叢書、2009年）ほか。

竹中治堅（たけなか はるかた）

政策研究大学院大学教授。

東京大学法学部卒業。大蔵省入省。スタンフォード大学政治学部大学院博士課程修了、Ph.D.（政治学）。中央省庁等改革推進本部事務局、政策研究大学院大学助教授、スタンフォード大学客員研究員などを経て現職。

主要著作・論文

『戦前日本における民主化の挫折―民主化途上体制崩壊の分析』（木鐸社、2002年）、『首相支配―日本政治の変貌』（中央公論新社「中公新書」、2006年）、『参議院とは何か―1947～2010』（中央公論新社、2010年）ほか。

原田 泰（はらだ ゆたか）

株式会社大和総研専務理事チーフエコノミスト。

東京大学農学部卒業。経済企画庁入庁、ハワイ大学に留学（経済学修士）、経済企画庁国民生活調査課長、同海外調査課長、財務省財務総合政策研究所次長などを経て現職。

主要著作・論文

『日本の失われた十年』（日本経済新聞社、1999年）、『昭和恐慌の研究』（岩田規久男氏他との共著、日経・経済図書文化賞受賞、東洋経済新報社、2004年）、『日本国の原則』（石橋湛山賞受賞、日本経済新聞出版社、2007年）、『日本はなぜ貧しい人が多いのか』（新潮社、2009年）ほか。

中村尚史（なかむら なおふみ）

東京大学社会科学研究所教授。

熊本大学卒業。九州大学大学院博士課程修了、博士（文学）。東京大学社会科学研究所助手、埼玉大学経済学部助教授、東京大学社会科学研究所助教授を経て現職。

主要著作・論文

『日本鉄道業の形成』（日本経済評論社、1998年）、『地方からの産業革命』（名古屋大学出版会、2010年）ほか。